



# 全国の国宝の数

(2021年12月1日現在)  
文化庁  
※2020年12月1日  
のデータとの比較

**東京都 美術品 NEW!**

**絹本着色春日権現験記絵(高階隆兼筆)**

「春日大社」の神がみの霊験を集めた、全20巻の絵巻物。鎌倉時代にえがかれた。西園寺公衡による1309年の目録によれば、詞は鷹司基忠ら4人が、絵は宮廷絵師の高階隆兼がかいたとされる。中世の人びとの信仰や生活がぎめ細やかな技法と発色の美しい絵の具でえがかれている。

**東京都 美術品 NEW!**

**紙本着色蒙古襲来絵詞**

鎌倉時代の2度にわたる元寇で戦った肥後国(現在の熊本県)の御家人、竹崎季長の戦いぶりをえがいた絵巻物。御家人の実体験が絵巻物の形で記録されたためずらしい作品で、武士の戦の服装や武器なども正確にえがかれ、歴史資料としても貴重。

**東京都 美術品 NEW!**

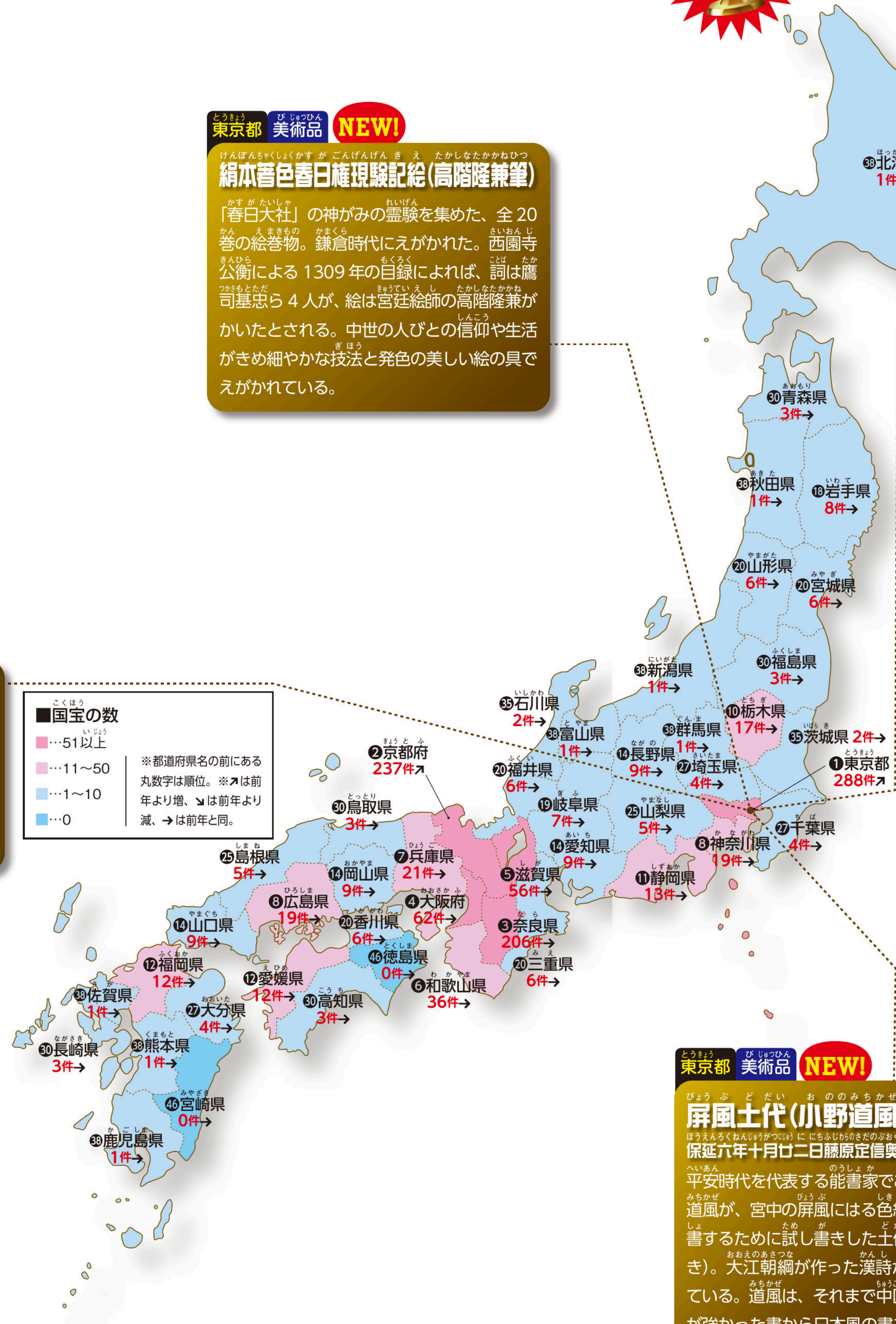
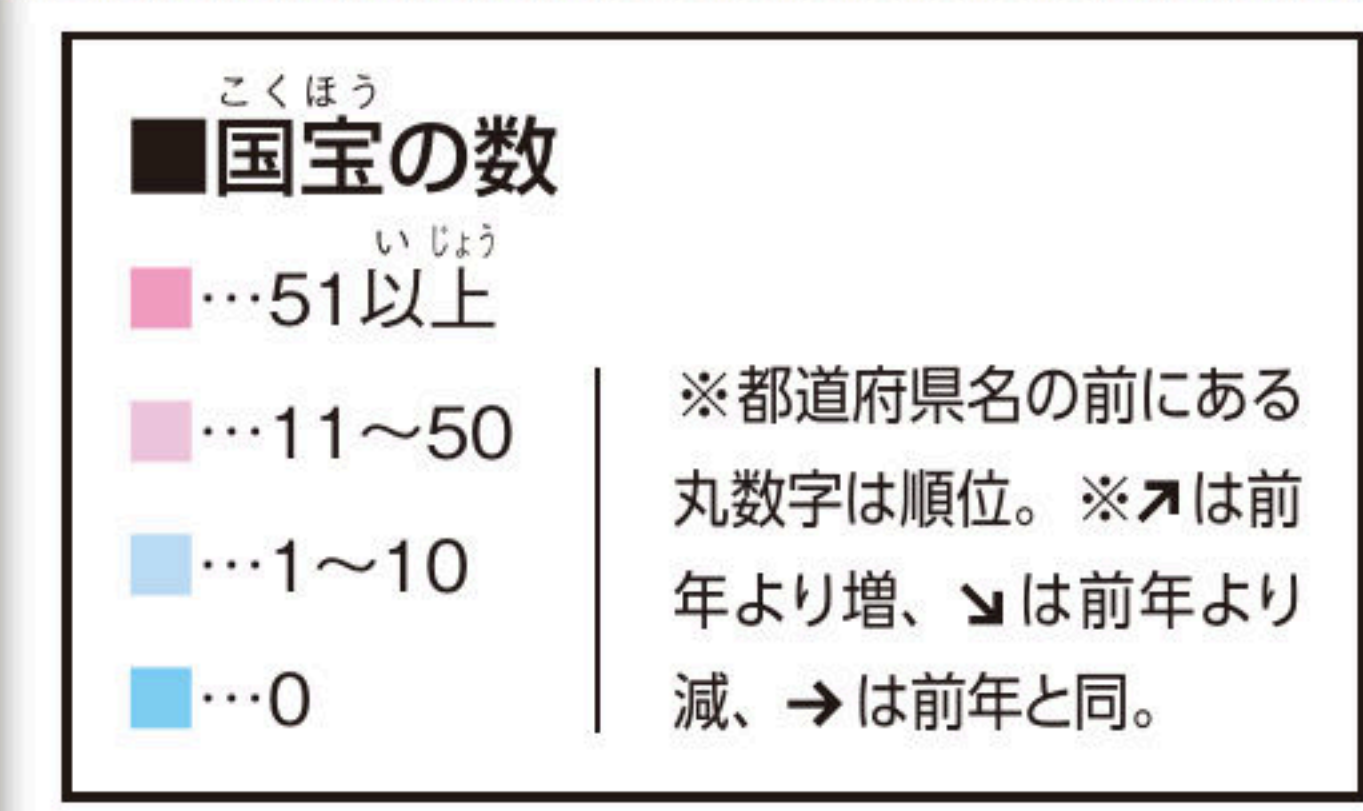
**絹本着色動植綵絵(伊藤若冲筆)**

江戸時代の画家、伊藤若冲が約10年かけてえがいた、全30幅からなる大作。数回にわたって京都の相国寺に寄進された。さまざまな生き物や植物を題材とする花鳥画で、観察に基づいた作品だ。若冲は鶏の絵師ともいわれ、全30幅のうち9幅に、鶏がえがかれている。

**東京都 美術品 NEW!**

**紙本金地著色唐獅子図(狩野永徳筆)六曲屏風**

金色の雲がたなびく山あいを、オスとメスの唐獅子がゆったりと歩く姿がえがかれた屏風で、狩野永徳の代表作。明るく壮大で迫力のある絵で、豊臣秀吉が本能寺の変で京都にもどるときに、毛利家との戦いを終わらせるために贈ったともいわれる。



**東京都 美術品 NEW!**

**屏風土代(小野道風筆)**

保延六年十月廿二日藤原定信奥書

平安時代を代表する能書家である小野道風が、宮中の屏風にはる色紙形に清書するために試し書きした土代(下書き)。大江朝綱が作った漢詩が書かれている。道風は、それまで中国の影響が強かった書から日本風の書を作りだし、日本の書道の基礎を築いた人物。

